

2018年度  
青少年のインターネット・リテラシー指標等  
に係る調査結果

---

2019年7月

総務省総合通信基盤局  
電気通信事業部  
消費者行政第一課

# 1 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査結果 －ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students)－

- スマートフォンが急速に普及し、インターネットがますます青少年にとって身近になる中、青少年がインターネットを安全に安心して活用するためには、インターネット・リテラシーの向上が必要。
- 総務省では、利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（青少年インターネットWG）の提言（2011年10月）を受け、青少年のインターネット・リテラシー向上のための前提として、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状等を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを指標として開発。2012年度より毎年、高等学校1年生を対象に、青少年のインターネット・リテラシーを測るテストをインターネット等の利用状況に関するアンケートとあわせて実施。
- 昨年度は、協力を得られた78の高等学校等において、2018年7月から2019年2月にかけてテスト及びアンケートを実施。その結果を集計・分析し、「青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標（ILAS：アイラス）等に係る調査結果」として取りまとめた。

## ■「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」（2009年4月1日施行）

### 【基本理念】

- ① 青少年の適切なインターネット活用能力の習得（インターネット利用に係るリテラシー向上）、②青少年の有害情報の閲覧機会の最小化（フィルタリングの機能向上・普及、関係事業者による取組み）、③民間による自主的・主体的取組、国等による尊重・支援

## ■利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（青少年インターネットWG）提言（2011年10月）

### 2. 各関係者に求められる役割等 （中略）

行政には、（特にインターネット上の危険への対処に係る）インターネットリテラシーに関する指標を、国際的に比較可能な形で整備し、定期的に公表していくことが求められている。

## ■青少年のインターネット・リテラシー指標に関する有職者検討会 （2011年9月～2012年3月）

教育工学や法学等に知見を有する有識者の方々からのご知見を踏まえ、特にインターネット上のリスク分類と、これに対応した危険・脅威への対応能力の整理、この能力を明らかにするテストの開発・分析・整理を実施。

（顧問）堀部政男 一橋大学名誉教授、渡部洋 東京大学名誉教授 （座長）赤堀侃司（白鷗大学教育学部長・教授）、（座長代理）新井健一（ベネッセ教育研究開発センター長）

## 2 ILASの実施概要等

### ○ テスト及びアンケート調査の実施概要

2018年7月から2019年2月にかけて、全国78の高等学校等において、12,626名の1年生を対象にIDを割り付けた上で無記名形式でテストを実施。併せて、利用している機器やトラブル経験の有無等についてアンケートを行い、クロス集計を実施。

所在地区分		設立区分		協力人数		平均点	
特別区等	8校	国立・国立高専	3校	男性	6241人	男性	32.8点
中核市	14校	公立	68校	女性	6372人	女性	35.3点
その他	56校	私立	7校	性別無回答	13人		
計 78校				合計 12,626人		全体 34.1点 (49点満点)	

100%換算で69.6%

(次ページ以降、100%換算で示す)

### ○ 青少年に必要なリスク対応能力の分類

「青少年のインターネット・リテラシー指標に関する有職者検討会」(2011年9月～2012年3月、座長：赤堀侃司白鷗大学教授)において、OECDの「インターネット上の青少年保護に関するレポート」(2011年5月)におけるリスク分類をベースに、インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力(リスク対応能力)に関し、以下の項目に整理。

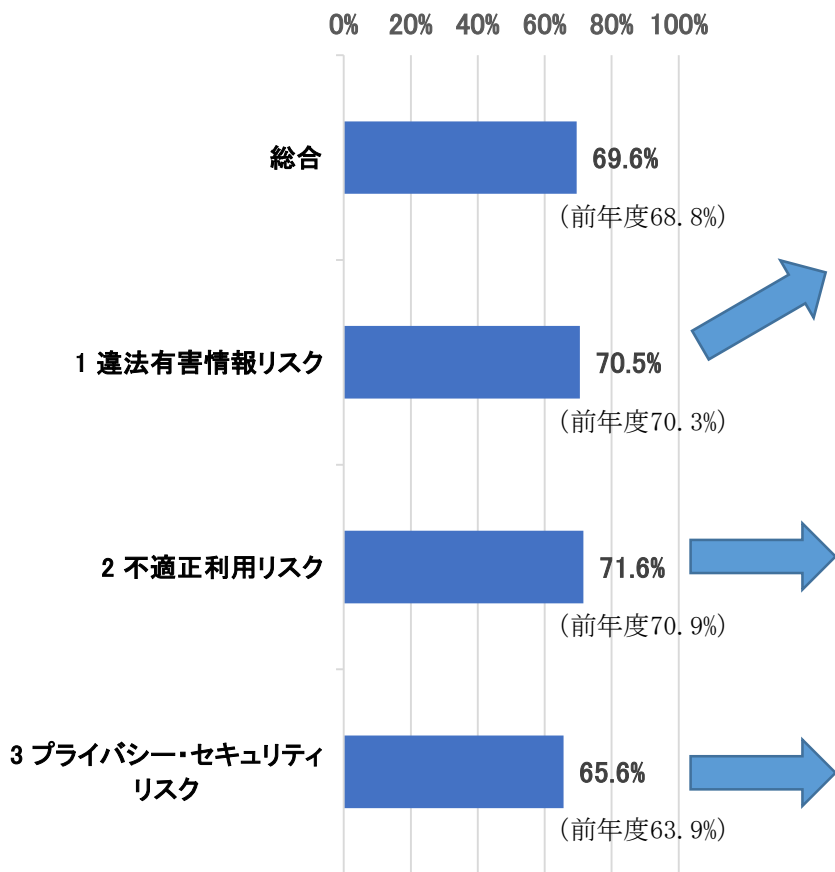
#### 【青少年に必要なリスク対応能力】

1. インターネット上の違法コンテンツ、有害コンテンツに適切に対処できる能力【違法有害情報リスクへの対応能力】
  - a. 違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。【違法情報リスク】
  - b. 有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。【有害情報リスク】
2. インターネット上で適切にコミュニケーションができる能力【不適正利用リスクへの対応能力】
  - a. 情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。【不適切接触リスク】
  - b. 電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。【不適正取引リスク】
  - c. 利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。【不適切利用リスク】
3. プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力【プライバシー・セキュリティリスクへの対応能力】
  - a. プライバシー保護を図り利用できる。【プライバシーリスク】
  - b. 適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。【セキュリティリスク】

# 3-1 2018年度ILASの結果

- 全体の正答率は69.6%であり、前年度（68.8%）より向上している。（図1）
- 不適切利用リスクへの対処能力（2c）の正答率（80.2%）が相対的に高い。一方で、不適正取引リスクへの対処能力（2b）の正答率（57.5%）やプライバシーリスクへの対処能力（3a）の正答率（63.9%）が相対的に低い。これらは前年度と同様の傾向であるが、いずれも前年度より正答率は高くなっている。（図2）

【図1】正答率（大分類）



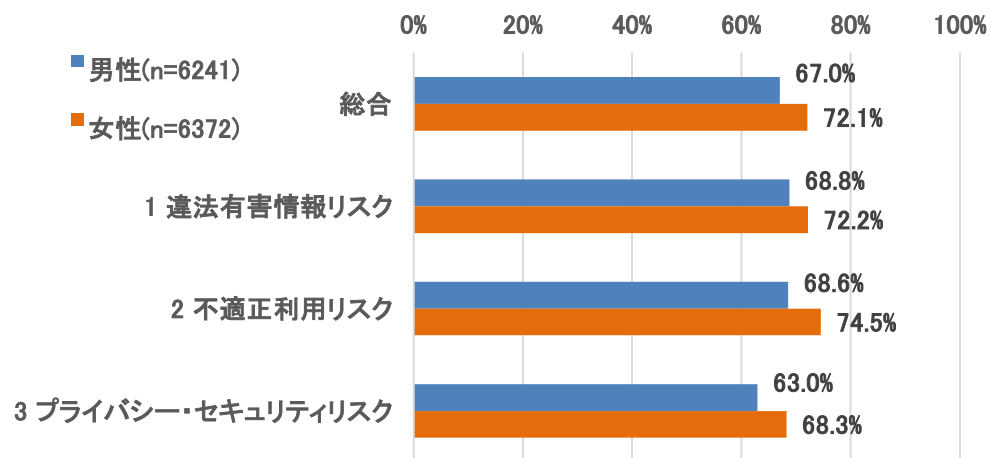
【図2】正答率（中分類）

総合	69.6% (前年度68.8%)
1 違法有害情報リスク	70.5% (前年度70.3%)
1a 違法情報リスク 著作権、肖像権、出会い系サイト等	73.6% (前年度73.8%)
1b 有害情報リスク 公序良俗に反するような情報等	67.4% (前年度66.8%)
2 不適正利用リスク	71.6% (前年度70.9%)
2a 不適切接触リスク 匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	77.1% (前年度77.0%)
2b 不適正取引リスク フィッシング、ネット上の売買等	57.5% (前年度56.4%)
2c 不適切利用リスク 過大消費、依存・歩きスマホ、マナー等	80.2% (前年度79.4%)
3 プライバシー・セキュリティリスク	65.6% (前年度63.9%)
3a プライバシーリスク プライバシー、個人情報の流出等	63.9% (前年度62.3%)
3b セキュリティリスク ID、パスワード、ウイルス等	67.4% (前年度65.6%)

## 3-2 2018年度ILASの結果

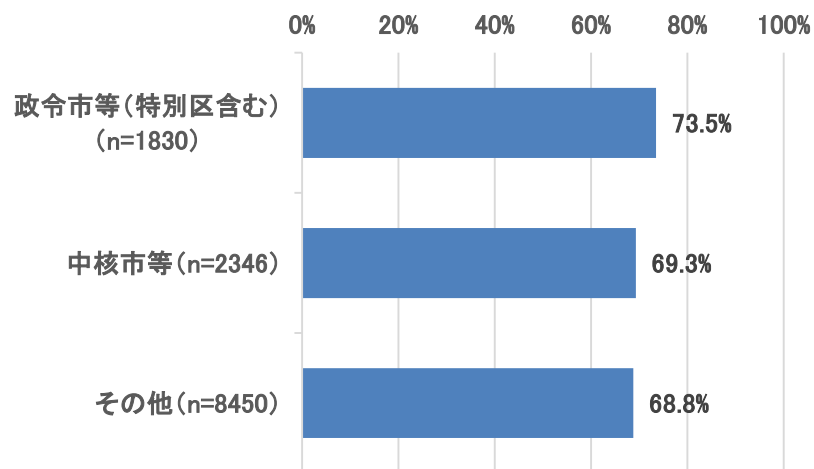
- ほとんどの設問で男子より女子の正答率が高い。この傾向は過去3年間変わっていない。(図1)
- 学校の所在地別では、政令市等における正答率が高い。(図2)

【図1】男女別の正答率（大分類）



	2016年度		2017年度		2018年度	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
総合	64.8%	69.8%	66.5%	71.1%	67.0%	72.1%
1 違法有害情報リスク	67.2%	70.5%	68.9%	71.8%	68.8%	72.2%
2 不適正利用リスク	66.3%	72.4%	68.2%	73.8%	68.6%	74.5%
3 プライバシー・セキュリティリスク	60.1%	65.0%	61.7%	66.3%	63.0%	68.3%

【図2】学校所在地別の正答率



	2016年度	2017年度	2018年度
政令市等 (特別区含む)	65.2%	68.8%	73.5%
中核市等	68.2%	70.1%	69.3%
その他	67.5%	68.4%	68.8%

### 3-3 2018年度ILASの結果

- 3年前との比較では、全体としての正答率は横ばい。  
 (「総合」の正答率で見ると、69.7% (2015年度) → 69.6% (2018年度) 。)
- 3年前との比較を項目別に見ると「3b. セキュリティリスク」の正答率が相対的に大きく上昇している一方で、「2c. 不適切利用リスク」の正答率が相対的に大きく下降している。  
 (3b. セキュリティリスク : 65.3% (2015年度) → 67.4% (2018年度) となっており、2.1%上昇。  
 2c. 不適切利用リスク : 82.4% (2015年度) → 80.2% (2018年度) となっており、2.2%下降。)

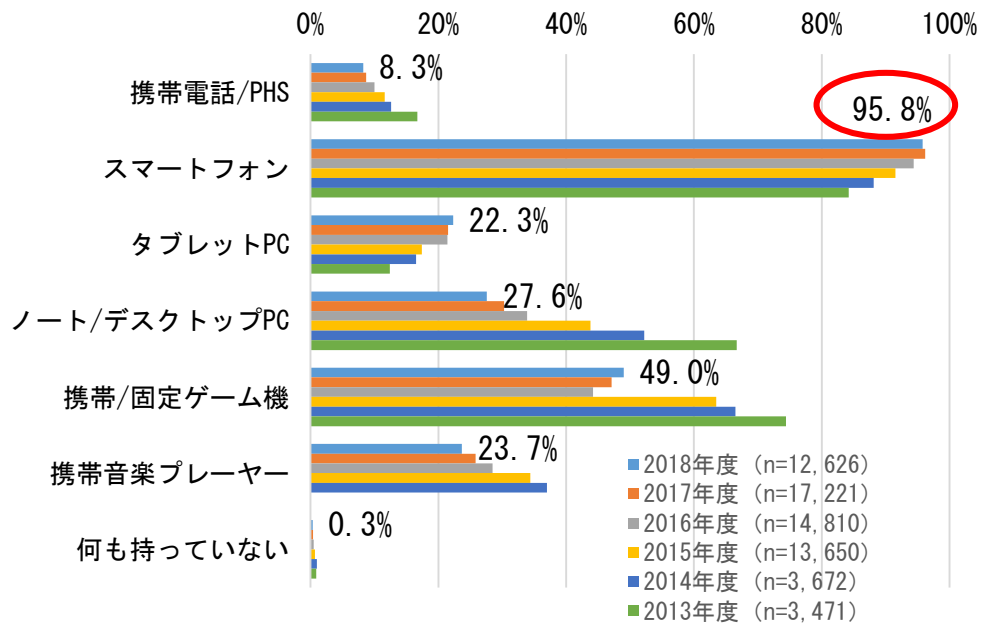
リスク分類	具体例	2015年度 (n=13,647)	2016年度 (n=14,812)	2017年度 (n=17,223)	2018年度 (n=12,626)
総合	—	69.7	67.2	68.8	69.6
1a. 違法情報リスク	著作権、肖像権、出会い系サイト等	72.9	71.8	73.8	73.6
1b. 有害情報リスク	公序良俗に反するような情報等	68.2	65.9	66.8	67.4
2a. 不適切接触リスク	匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	78.3	75.8	77.0	77.1
2b. 不適正取引リスク	フィッシング、ネット上の売買等	57.1	54.6	56.4	57.5
2c. 不適切利用リスク	過大消費、依存・歩きスマホ、マナー等	82.4	77.5	79.4	80.2
3a. プライバシーリスク	プライバシー、個人情報の流出等	63.9	60.8	62.3	63.9
3b. セキュリティリスク	ID、パスワード、ウイルス等	65.3	64.3	65.6	67.4

## 4 高校生※の利用機器の現状 ※ 高校1年生

- 高校生の95.8%がインターネット接続機器としてスマートフォンを保有している。（図1）
- 保有するインターネット接続機器のうち最もよく利用する機器として、高校生の92.2%がスマートフォンをあげている。（図2）
- なお、2013年度から2017年度まで、インターネット接続機器としてスマートフォンを選択する高校生の割合は上昇してきたが、2018年度は前年度から微減となった。

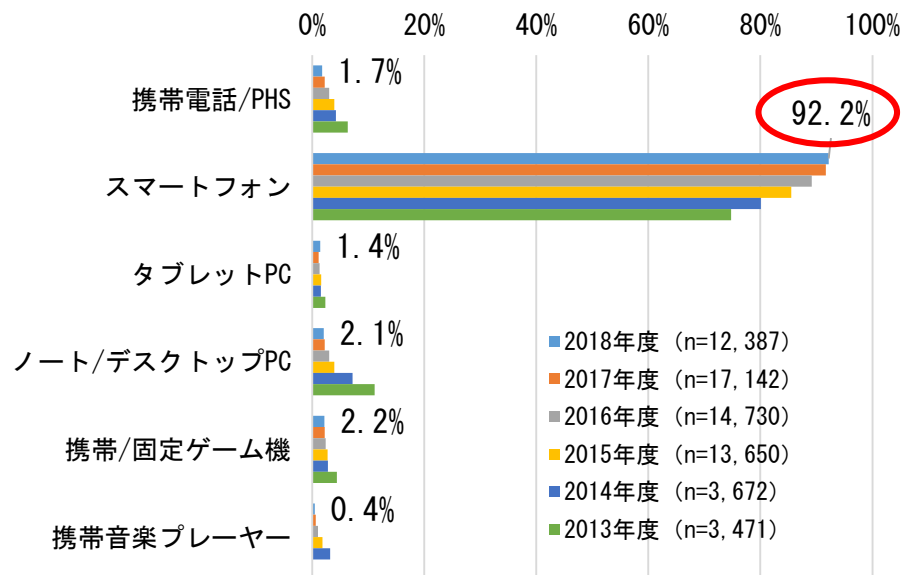
【図1】保有するインターネット接続機器（複数回答）

あなたが保有しているインターネットに接続する機器を教えてください。



【図2】保有するインターネット接続機器のうち、最もよく利用する機器（択一回答）

左の問でお答えいただいた機器の中で最もよく利用する機器はどれですか。



（出典）青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート結果を基に作成。

## 5-1 高校生のインターネット利用の現状（平日）とILASの結果（クロス集計）

- 平日1日当たりの平均利用時間は、スマートフォンについて2時間～3時間の利用が最も多く（28.5%）、他の機器に比べ利用時間が長い。（図1）
- スマートフォンの利用時間別の正答率では平均利用時間が1時間～2時間が最も高く、平均利用時間2時間以上においては、利用時間が長いほど正答率が低下する傾向にある。（図2）

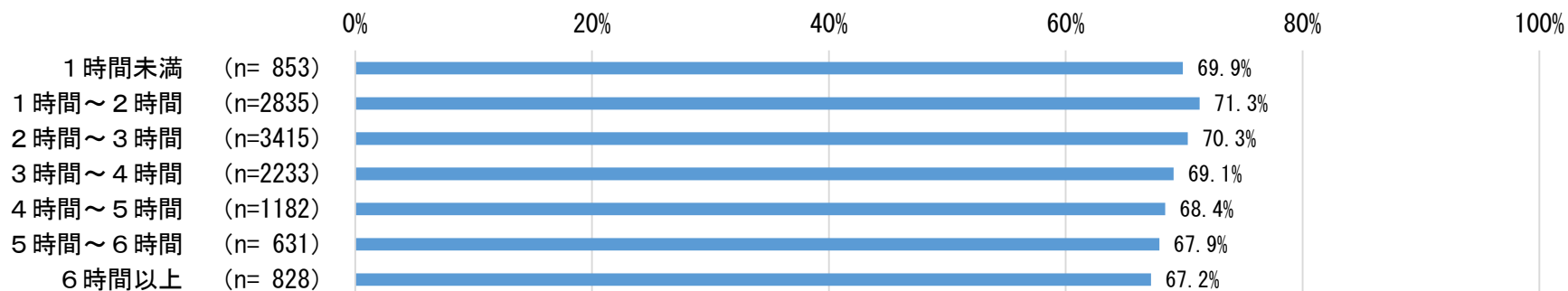
あなたが平日にインターネットを利用する際に使う機器について、それぞれの1日の平均使用時間を教えてください。

【図1】平日1日当たりの平均利用時間

[各機器保有者における割合：%]

	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6時間以上
スマートフォン (n=11977)	7.1	23.7	28.5	18.6	9.9	5.3	6.9
PHS+携帯電話 (n= 985)	65.5	13.5	8.2	5.1	3.0	1.5	3.1
タブレットPC (n= 2744)	74.1	14.8	6.6	2.1	1.3	0.3	0.7
ノートPC+デスクトップPC (n= 3704)	76.5	12.5	5.8	3.1	0.6	0.7	0.8
携帯ゲーム機+固定ゲーム機 (n= 8784)	75.7	13.3	6.0	2.7	1.0	0.4	0.8
携帯音楽プレイヤー (n= 2862)	71.5	17.7	5.6	2.2	1.6	0.6	0.8

【図2】スマートフォンの利用時間別の正答率（スマートフォン保有者ベース、n=11977）



（出典） 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート結果を基に作成。



## 5-2 高校生のインターネット利用の現状（休日）とILASの結果（クロス集計）

- 休日1日当たりの平均利用時間は、スマートフォンについて3時間～4時間の利用が最も多く（21.2%）、他の機器に比べ利用時間が長い。（図1）
- スマートフォンの利用時間別の正答率では平均利用時間が2時間～3時間が最も高い。（図2）

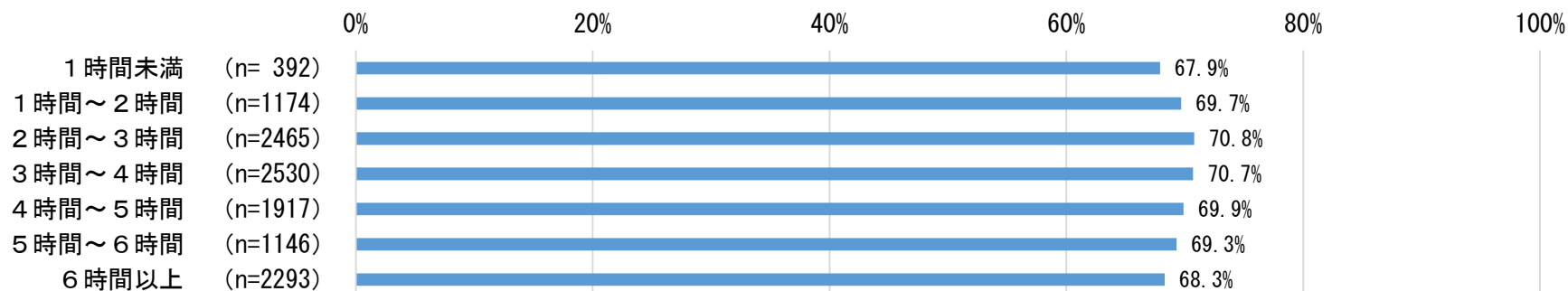
あなたが休日にインターネットを利用する際に使う機器について、それぞれの1日の平均使用時間を教えてください。

【図1】休日1日当たりの平均利用時間

[各機器保有者における割合：%]

	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6時間以上
スマートフォン (n=11917)	3.3	9.9	20.7	21.2	16.1	9.6	19.2
PHS+携帯電話 (n= 981)	62.5	8.8	8.1	6.4	5.5	3.1	5.7
タブレットPC (n= 2742)	62.9	16.8	9.2	4.9	2.3	1.2	2.7
ノートPC+デスクトップPC (n= 3704)	67.1	13.4	7.2	4.2	2.5	1.2	4.3
携帯ゲーム機+固定ゲーム機 (n= 8784)	66.3	14.3	8.5	4.3	2.5	1.5	2.7
携帯音楽プレイヤー (n= 2861)	66.0	17.8	8.2	3.5	1.7	0.7	2.1

【図2】スマートフォンの利用時間別の正答率（スマートフォン保有者ベース、n=11917）



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート結果を基に作成。

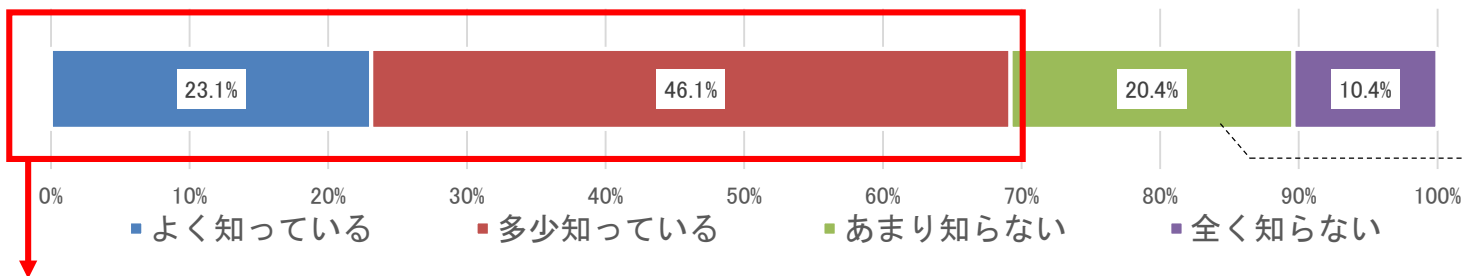
## 6 フィルタリングに対する認知と利用状況

- 高校生の69.2%が一定程度フィルタリングを認知\*している。(図1)  
※ フィルタリングを「よく知っている」又は「多少知っている」と回答した者の合計
- フィルタリングを一定程度認知している高校生の51.0%がフィルタリングを利用。(図2)
- 一方、フィルタリングをあまり知らない高校生のフィルタリング利用率は19.5%。

▶ **〔考察〕** フィルタリングの利用促進に向けては、**フィルタリングサービスの認知を上げていくことが必要**。

【図1】 フィルタリングの認知状況 (スマートフォン保有者ベース、n=12066)

あなたはフィルタリングまたは機能制限を知っていますか。

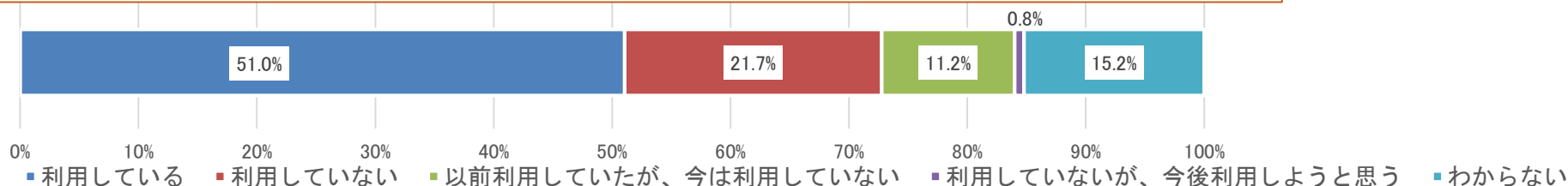


(参考)  
フィルタリングを「あまり知らない」と回答した者におけるフィルタリング利用率：19.5%

【図2】 フィルタリングを認知\*している高校生のフィルタリング利用状況 (スマートフォン保有者ベース、n=8349)

※この図では、フィルタリングを「よく知っている」又は「多少知っている」と回答した者におけるフィルタリング利用状況を集計している。

あなたはフィルタリングまたは機能制限を利用していますか。



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート結果を基に作成。

## 7 フィルタリングに対するイメージと利用状況

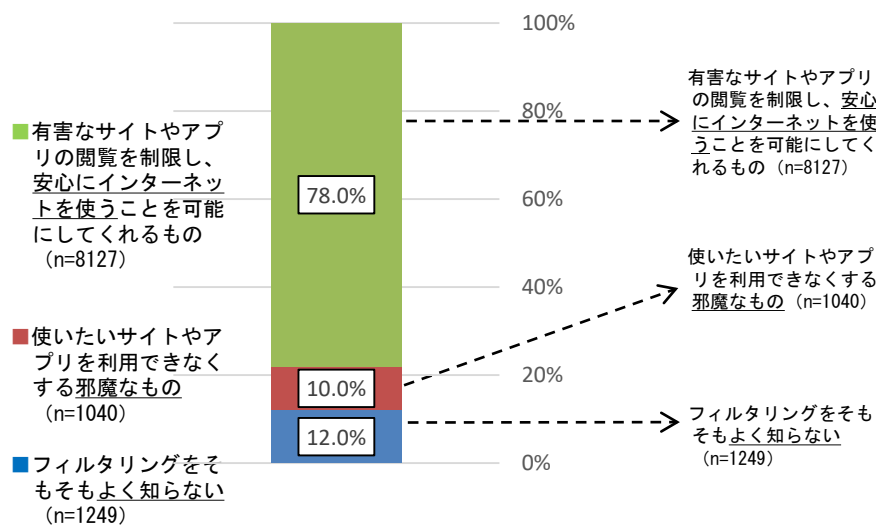
○ 高校生の78.0%がフィルタリングを「有害なサイトやアプリの閲覧を制限し、安心してインターネットを使うことを可能にしてくれるもの」と肯定的に捉えている一方、高校生の10.0%がフィルタリングを「使いたいサイトやアプリを利用できなくする邪魔なもの」と否定的に捉えている。（図1）

○ フィルタリングを肯定的に捉えている高校生の49.0%、否定的に捉えている高校生の36.3%がフィルタリングを利用している。一方で、フィルタリングに肯定的なイメージも否定的なイメージも持っていない高校生のフィルタリング利用率は16.0%である。（図2）

▶ **【考察】** フィルタリングの利用促進に向けては、**フィルタリングの有用性や機能（サイト・アプリのカスタマイズ機能等を含め）**について、正しい情報を周知することが重要。

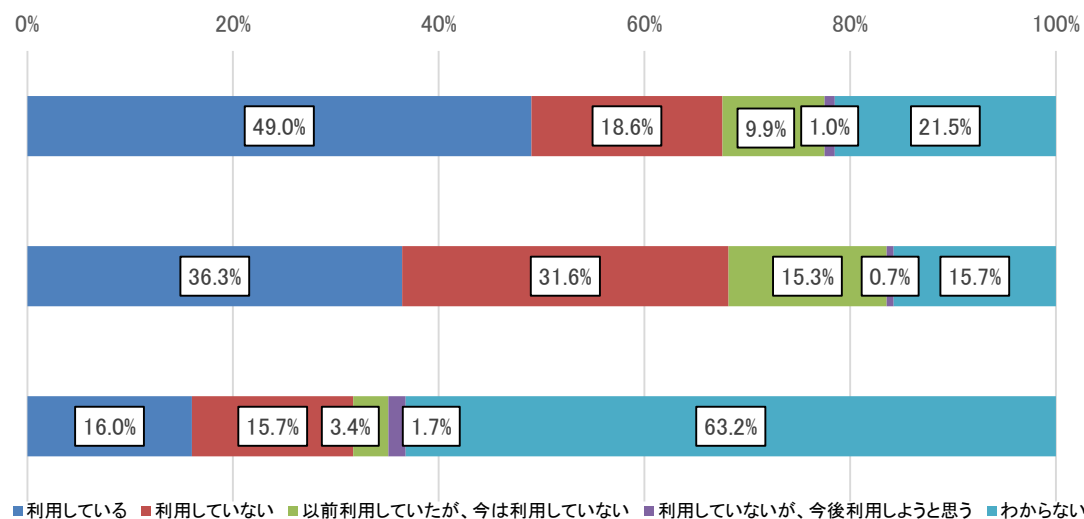
**【図1】 フィルタリングに対するイメージ**

（スマートフォン保有者ベース。フィルタリングを全く知らないと回答した者を除く。）



**【図2】 フィルタリングに対するイメージごとにおけるフィルタリング利用状況**

（スマートフォン保有者ベース。フィルタリングを全く知らないと回答した者を除く。）



（出典） 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート結果を基に作成。

## 8 学校・家庭でのSNS等の利用のルールとフィルタリングの利用状況

- SNS等の利用について学校でのルールや家庭でのルールがある高校生のほうが、ルールがない高校生に比べフィルタリング利用率が高い。

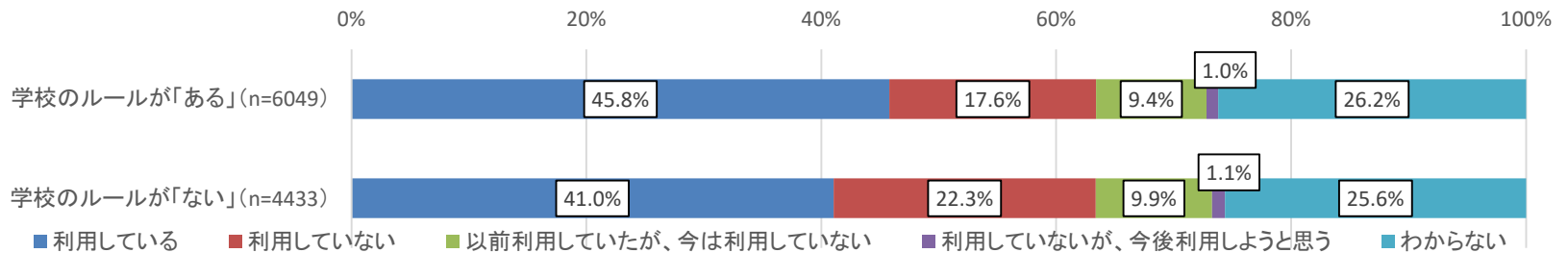
(家庭でのルールが「ある」：55.0%、「ない」：34.6% 学校でのルールが「ある」：45.8%、「ない」：41.0%)

- 学校でのルールがある場合のフィルタリング利用率（45.8%）より、家庭でのルールがある場合のフィルタリング利用率（55.0%）の方が高いことから、学校でのルールの有無より家庭でのルールの有無の方が、よりフィルタリング利用に影響を与えていると考えられる。

▶ **〔考察〕** フィルタリングの利用促進に向けては、家庭でのインターネット利用に係るルールづくり等、安心な利用に係る保護者の意識向上（普及啓発）が重要。

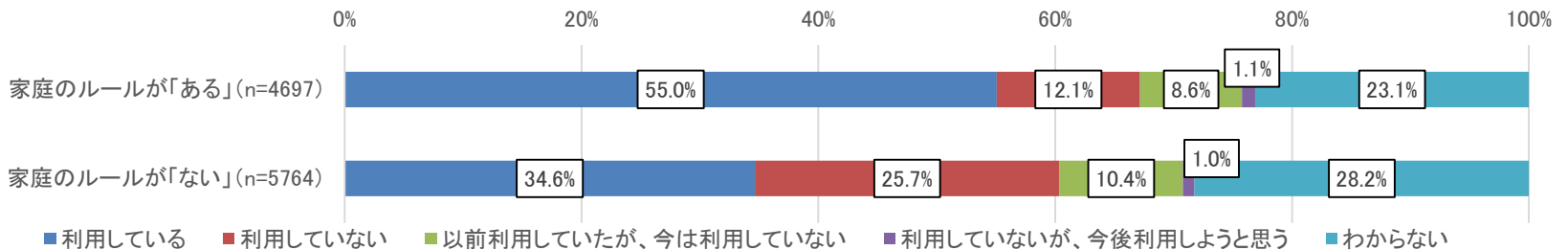
【図1】 学校のインターネット利用ルールの有無とフィルタリングの利用状況

(スマートフォン保有者ベース。フィルタリングを全く知らないと回答した者を除く。)



【図2】 家庭のインターネット利用ルールの有無とフィルタリングの利用状況

(スマートフォン保有者ベース。フィルタリングを全く知らないと回答した者を除く。)



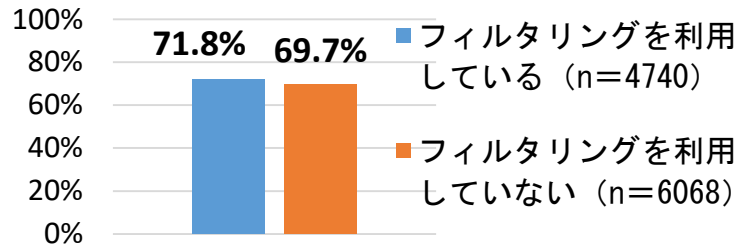
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート結果を基に作成。

## 9 フィルタリング利用や家庭のルールとILASの結果（クロス集計）

- フィルタリングを利用している高校生（正答率：71.8%）の方が、フィルタリングを利用していない高校生（正答率：69.7%）に比べ正答率が高い。（図1）
- 家庭でのルールがある高校生（正答率：71.2%）の方が、ルールがない高校生（正答率：68.5%）に比べ正答率が高い。（図2）

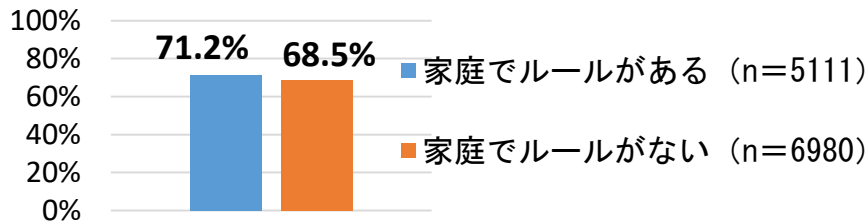
【図1】 フィルタリング利用の有無と正答率

（スマートフォン保有者ベース。フィルタリングを全く知らないとは回答した者を除く。）



【図2】 家庭のインターネット利用ルールの有無と正答率

（スマートフォン保有者ベース。）



（参考）家庭でのルールの有無及びフィルタリング利用の有無と正答率

（スマートフォン保有者ベース。フィルタリングを全く知らないとは回答した者を除く。）

		家庭でのルールの有無	
		○あり	×なし
フィルタリング利用の有無	○あり	73.0% n=2585	70.3% n=2155
	×なし	70.6% n=2112	69.2% n=3956

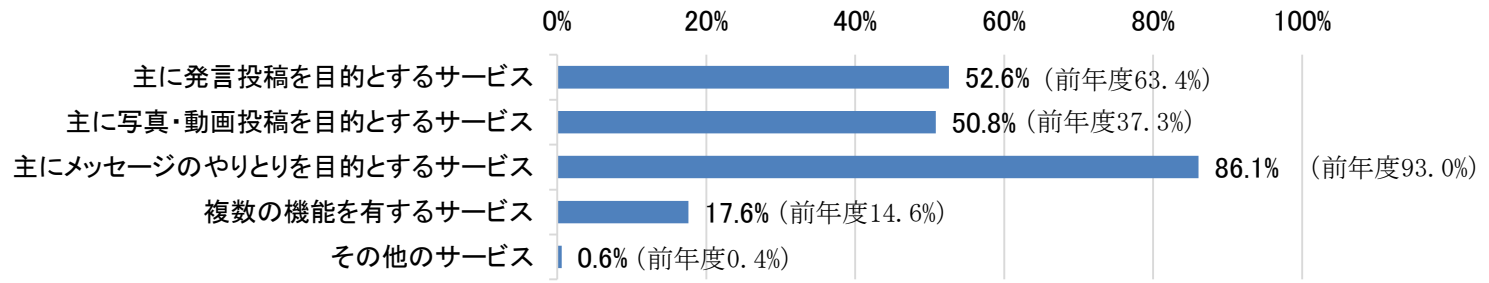
\* 全体の正答率は69.6%  
n=12,626

# 10 高校生のSNS利用状況等

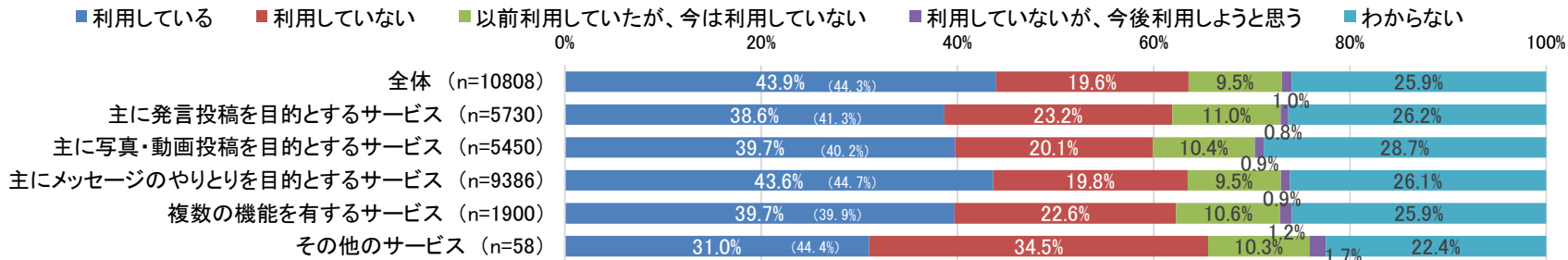
- 高校生が利用しているSNSは、「主にメッセージのやりとりを目的とするサービス」が最も多く（86.1%）、「主に発言投稿を目的とするサービス」（52.6%）、「主に写真・動画投稿を目的とするサービス」（50.8%）と続く。（図1）
- 高校生が利用しているSNSの種別ごとのフィルタリング利用率を見ると、「主にメッセージのやりとりを目的とするサービス」の利用者における利用率が相対的に高く（43.6%）、「主に発言投稿を目的とするサービス」の利用者における利用率が相対的に低い（38.6%）。また、SNSを利用していない高校生のフィルタリング利用率はさらに高い数値（49.2%）となっている。（図2）

▶ **〔考察〕** SNSを利用している高校生等に対し、「高校生プラスモード」やカスタマイズ機能等の周知を図ることが、フィルタリングの利用率の向上につながる可能性がある。

【図1】利用しているSNS（複数回答。スマートフォン保有者ベース。）



【図2】利用しているSNSとフィルタリング利用状況（スマートフォン保有者ベース。フィルタリングを全く知らないとは回答した者を除く。）



（参考） SNSを利用していない者（n=777）のフィルタリング利用率：49.2%

（出典） 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート結果を基に作成。